

甲賀市第 3 次障がい者基本計画（中間見直し）及び
第 7 期障がい福祉計画
第 3 期障がい児福祉計画策定に向けた調査
（関係団体）

令和 5 年 9 月

甲 賀 市

問1 団体の取組み

団体としてどのような取組みをされていますか。また、今後の取組みや検討していることはどのようなことですか。

行政や他団体などとの連携

市長への要望書提出と市長・関係機関との意見交換会
甲賀市内5地区と緊密な連絡を図り、福祉の増進と文化向上に努め、自立更生ができる事業
関係諸団体が開催する研修会、講習会、スポーツ大会、福祉大会等に積極的に参加すること
福祉施策の中で、これができたとか、できてないとか、市からのはっきりとした情報が欲しい。

情報交換や悩み共有

相談会（子育て・障がい年金等・GH・親亡き後の対策についてなど）
情報交換会（LINE 利用）
我々、団体となって236名いるが、現在活動しているのが30名なので、情報交流のため、もっと多くの人に色々な情報がわかるようにするため。
悩みを相談できる。ホッとする。何でも気楽に話してスッキリ、ほっこりできる居場所作り。
子どもの学校のことや気になることなどの情報交換の場所作り。
1～2ヶ月に1回2時間程度、親だけで話せる時間を設けている。
今後お話し会は継続していき、それ以外に皆で勉強会、質問の回、親子で楽しめるイベントなどができればと考えている。

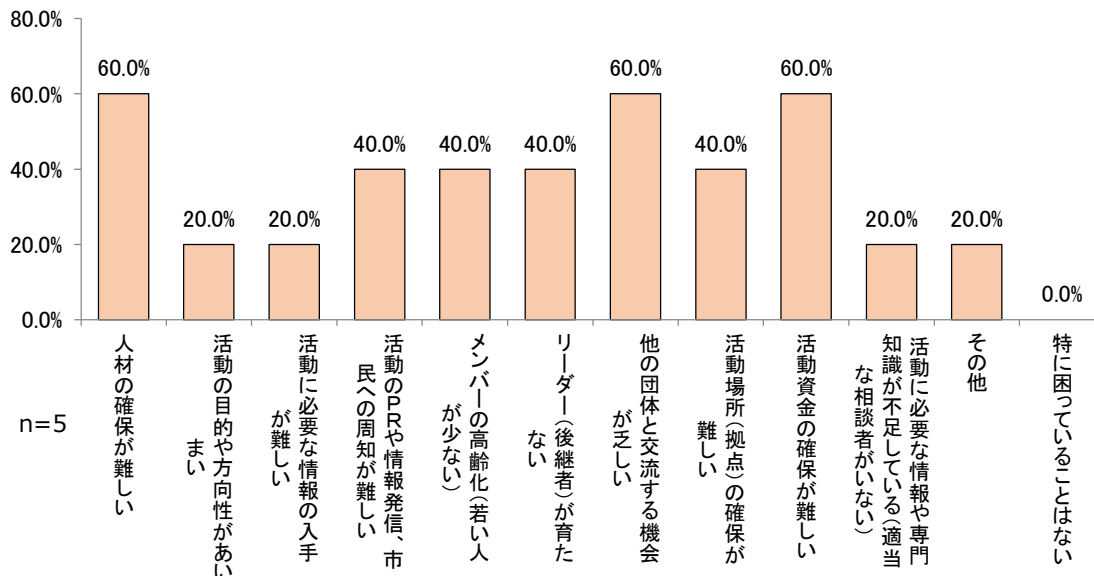
その他

懇親会
見学会
ここパス記入会
月1回第4土曜日のスマイルきずなの活動
月1回第1火曜日の親のミーティング
役員が高齢化し、若い人の入会を積極的にお願ひする（募集する）

問2 活動や運営の課題

活動や運営にあたって、課題となっていることはどのようなことですか。

「人材の確保が難しい」「他の団体と交流する機会が乏しい」「活動資金の確保が難しい」の意見が多くなっています。



問3 連携に対する考え方

地域や他の団体との関わりの状況及び連携することの必要性について、どのようにお考えですか。また、貴団体が活動するうえで、他の団体に協力してほしいことはありますか。

<p>他の団体と一堂に会う機会はないので、各団体がどのように活動をして何に困っているかもわからないので、回答は難しい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・甲賀市社会福祉協議会(甲南地域福祉活動センター)との連携を行っている。 ・ボランティアスタッフとの連携を行っている。 ・地域社会福祉法人や自治振興会との連携が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・身障更生会にもっと加入してほしい。 ・障害を持つ多くの人に参加できる団体活動を望みます。 ・聴覚障害者との会話は、手話のできる人がごく少数なので、最初は筆談でやりたいです。
<p>障害者の特性があり、なかなか他団体との交流はむずかしい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の団体との関わりは現在ない。 ・お互いの存在を知り関わることで、地域での暮らしやすさが増すと思う。 ・障がいに関係なく、地域や団体の方で協力してくださる方などを市にバックアップしていただくと、分け隔てない関係性ができると思う。 ・イベントを行う際の協力。

問4 各分野に対する考え

(1) 地域で安心して暮らすことができる相談支援体制の推進

障がいのある人が、障がいや生活の困りごとについて気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

相談窓口に対する意見

気軽に相談できる場所は、ないように思う。気軽に行政に相談するのも知っている方の移動や退職により難しくなっている。
市役所の相談窓口には行きにくい。
市役所に相談に行けば丁寧に相談に乗ってくれるが、なかなか行きにくく、行けないのが現状である。
気軽に行って相談もできる、子育て支援センターの障がい児・者バージョンがあったら安心。信楽や土山の人が遠くなりすぎない場所にそんな場所があると嬉しい。市役所の一部や、3月に閉まる貴生川のみなくち診療所の建物を活用して、そのような場所を作ってほしい。
現場の話を聞く傾聴ボランティアのような、市と連携できる部署があればいいと思う。相談に来てくださいという形ではなく、出前のような話を聞きに来てくれる形だと話やすい。自ら相談に行くにはハードルが高く感じる。
すぐに相談できて、必要なところに繋いでくれるケアマネージャーのような存在がいてもいいと思う。
わかりやすい窓口（相談所）が1つあれば嬉しい。

相談員に対する意見

相談員はいますが、会員や市民に利用されていないので、もっとPRが必要。

体制に対する意見

日常から気軽の話ができる場とその場でできた相談を専門家につなげる体制が必要である。
相談員を設置しているが、ほとんど方が知らない状況である。アウトリーチする体制が必要である。
相談だけで終わらず、何らかの具体的な応援につけることが必要である。（相談の渋滞、相談塚家の解消）

その他

障がい者団体としては、家族の高齢化や生活でいっぱいな状況なので、さらに活動していこうとする家族はまれである。
現状も含めて、3月より“閉庁2時間前カフェ”を立ち上げ、行政とつながりながら幅広い専門職スタッフとともに（ちょこプラ）誰でも気軽に立ち寄り相談できる地域のプラットフォームを軌道に乗せている途中。 相談内容により行政につなげる必要があればすぐに対応できるシステムにしている。 また、社会資源とまたは社会資源同士がつながる機会もできるので、新たなアイデアが生まれる可能性も期待している。
親のミーティングで困りごとを共有して、共に社協に相談していきたい。
市民のレベルとして、バリアフリーと言うが、個人情報のごとで、なかなか伝わりにくい。
個人情報の保護がたてとなって、むずかしい。
視覚障害と言っても、百人百様があり、なかなか難しい。
育てにくさやそれ以外のことに悩んでおられるご家族のお話しをお聞きしたり、自分たちの経験してきたことなら話すことができる。

(2) 障がいのある子どもへの継続的な支援

子どもの発達や子育て支援のために、どのようなことが必要だと思いますか。また、貴団体とすることができるがあれば教えてください。

福祉教育・教育環境

休日の余暇活動（月1回第4土曜日のスマイルきずなの活動）
発達面は療育、障がい児教育の充実。
子育て支援は、学校や家庭以外にも居場所があると安心する。放課後等デイサービスを増やす。また、在宅サービスの充実。
障がい関係なく、なんでも挑戦したり楽しめる習い事やイベント。
習い事など障がいを持った子どもたちも参加しやすい団体があれば、市が積極的に支援したりPRしてほしい。

保護者

家庭が丸ごと障がい特性を知り一緒に育てていく、本人を中心として一生涯支援の輪を築いていくこと。
少し先の未来を見ながら、今何ができるかを理解し安心して子育てができる、親が知る機会や学ぶ機会が必要。→先行く先輩として経験したことを伝えていくこと。

その他

幼児期、養護学校期、福祉作業所期、親と離れた暮す時期、高齢期など情報の継承と一生涯支援体制の確立
ひとり親家庭の子供さんは、生活状況があまり良くない。 食べ物支援、スクールガード支援等、障害者でもできる支援を考えています。
もっと気軽に相談して欲しい。 市民の皆さんが、何事にも相談できる所を作って欲しい。
療育を受けている期間にゆっくり相談できる時間を設けてほしい。
療育を終了したあとに、相談できる窓口があれば嬉しい。先生方の忙しさも知っているので、自分からはなかなか連絡が取りづらい。

(3) 障がいのある人の地域生活の受け皿づくりと自立生活への支援

障がいのある人が地域で生活していくためには、どのような支援（地域での受け皿、在宅医療や福祉サービスの充実、住居の確保など）が必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

居住・預かりの場・緊急時の対応

知的重度の方が住むことができる GH や施設整備が必要。また、支援者も不足しており親亡き後のことが問題になっている。
一人で暮らせないので、親がいなくても暮らし続けたためのグループホームの確保が急務。（本人、親の高齢化の進展）
障害に応じての住宅改造や障害者サービス支援を、行政に行ってもらえるよう、また、会員の要望をできるだけ行政窓口届けられる体制をとりたい。
<必要なこと> ・家に閉じこもる本人を、外に出すための支援が必要（介護予防の側面も含む）。 ・支援者なきあとの暮らしの支援が必要。
地域で生活していくために、在宅サービスが必要だと思う。甲賀市には在宅サービスが少ないように感じる。
在宅医療などを通して家族のサポートや、障がいがあっても利用できるデイサービスや通所看護などを増やしてほしい。
障がいのある人の働く場所の確保。
療育を塾にしてしまうような場所、そういうところがあれば1ヶ月の受給日数が15日でも共働きの夫婦が困らない。

全般にわたる支援

支援者を増やすように賃金も含めなり手の育成にアプローチをかけていく必要がある。
本人を中心とした支援体制を確立することが必要である。
団塊の世代が到来するが、自分たちで解決しなければならない。
協会としては、市とかへは言えるが、何が困っておられるのかが、見えにくい。

(4) 障がいのある人が地域で働ける環境づくり

障がいのある人が働くためには、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

企業の理解・協力

働き教育センター的な取り組みを知ってもらう・経験してもらうことが大切。 また、そういうところと実際に企業や農業などと連携をしていく取り組みが必要。
--

職場環境の整備

誰かの力になりたい、働きたいと思っている障がい者の気持ちに寄り添ってくれる働き場所が増えてほしい。働く場所が選択できたら嬉しい。
--

その他

高卒後すぐに働くのではなく、働くことに向かったの訓練や心構えを持てるような取り組みが必要。
親の意見のとりまとめ
障害の程度に応じた仕事を探し、支援していく障害福祉課であってほしい。 特に、福祉作業所の給料体制はなっていない。 早く、月3万円以上になるよう支援をお願いします。
できる作業の内容による。
移動支援の問題がある。
働くようになって困らないように、学習することが必要。いろいろな仕事を想定して、働きに出たときに困らないような支援が必要。

(5) 障がいの有無に関わらず情報格差のないまちづくり

令和3年10月1日に甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例が施行されましたが、日常生活等で変化を感じることはありますか。

障がい者の情報アクセスとコミュニケーションの権利が保障される社会の実現に向けて、何が必要だと考えますか。また、日常生活や外出時に不便に感じていることや配慮が必要なことは何ですか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

条例

条例ができて地域生活の中で、大きな変化はあまり感じられていない。 関係者だけが知っていても広がらないので、行政としてもっと啓発活動的に動いていく必要はある。
日常生活等で変化を感じない
・条例は知っているが、形だけで詳しい内容がわからない。 ・どのように、かわったか教えてほしい。

その他

子供が不安な状況になり親に絡んでいても手助けするような声掛けをしてくれる人はほとんどいない。困っていても助けてくれる人は少ない。
コロナ下で少し状況に変化はあるものの臨機応変な対応を行う社会には成長していない。
重度障害者への情報理解が困難である。支援者を通じた情報アクセスとコミュニケーションが必要
手話通訳者が少ないと思います。聴覚障害者が行動するにはもっと必要だと思います。 本会活動の講演会、講習会、総会、研修会等は、手話通訳者を同席させていただいておりますが、他の個人活動中の通訳者は頼っておりません。
どのようなサービスがあるかを知らない人が多いので、まずはそれを知ってもらう取り組みが必要である。
手話を学び始めた人が周りにいる。
買い物の間や美容室の間など、数時間子どもを見てくれるシステムがあれば助かる。

(6) 障がいの有無に関わらず誰もが人権尊重されるまちづくり

障がいのある人への市民の理解を深めるために、何が必要だと考えますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

地域住民の理解・協力

困っている人がいたら声かける、手伝うといった昔行われていたような社会が失われている。コミュニケーション力低下と、人と人が顔を合わせて会話して理解していく、人と人が生のフレンドシップができる場所や機会を構築していくことが必要。 SNSは便利だが、良いところもそうでないこともあるので、バランスの取れた社会を作れるように望む。 人と人が出会い、つながっていく機会をたくさん作ること。
現状知ってもらいたいこと
回覧板で回す。理解が深まるチラシを世帯に配布する。

人権学習

<ul style="list-style-type: none">・学校などで伝えていけるといい。大人の偏見が何も知らない子どもに影響しないしてほしいと思う。授業に取り入れる。・子どもは、障がいのある子と物心ついたときから一緒にいると、純粋な疑問は持っても差別には繋がりにくいと思う。・小学校から地域の学校と養護学校にわかれることがあるために、そこで理解を深めるチャンスを奪っているように思う。同じ敷地内であればいいと思う。そうすれば改めて学ぶことなく自然に学べる事がたくさんあると思う。

その他

現状一般的には経済的に生活が厳しいので、自分の生活を守っていくのが必至の状況ではないでしょうか？しかしできることは少しでもあるので、今できることをやるしかない状況。
本音で話せる場づくり（月1回第1火曜日の親のミーティング）
市長が自ら障害者作業所とともに働き、障害者の意見を聞く機会や、障害者スポーツのボッチャ、グラウンドゴルフ、フライングディスク等のスポーツを同時に楽しむ姿を見てもらう。
自分が子育ての中で経験してきたことや今持っている知識をお話しすることはできる。

(7) 誰もが安心できるバリアのない快適なまちづくり

障がいのある人が、地域や社会に気軽に安心して参加するために、市や地域社会にどのようなことを期待しますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

心のバリアフリー

誰もがいづれ障がいを持ちながら生きていくことを実感できたら、少しは優しい社会になるのでしょうか？ 社会参加が難しい人に関しては、周りが温かく寄り添う、伴奏的支援を意識してほしいです。 “こっちにきてくれたら”ではなくこちらから障がいのある方のところに自ら歩み寄り声掛け寄り添う行動が必要だと感じている。

施設整備

何をどこに相談したらよいか？気軽に相談できて解決できる方向に対応していくことができる機関が必要です。
相談サポートセンターも機能していない感じがする。
親なきあとの暮らしの支援（グループホームなど）
集うための拠点づくりの支援

その他

今一度これから福祉をどうしていくのか？どう連携して“だれ一人残さない社会の構築”ができるのかをそれぞれ真剣に考えて動くべき時期だと感じている。
行政内も連携ができていないように感じる。
現状の活動の継続して、本人、親、行政、ボランティアをつなぐ
地域社会で、障害の程度に合った仕事を提供してもらい、地域住民との共生社会づくりに参加できれば良いと思います。
道とか通行道路をとっても全部統一していないのでおずかしいと思う。
移動支援を期待する。
協力してくださる団体や企業を市にバックアップしていただきたい。
行事やイベントに関して、規則が厳しいと障がい児・者の参加が難しく躊躇してしまうことがある。

問5 まちづくり

障がいのある人もない人も、住み慣れた地域で、自分らしく生きることができる「まち」になるために、今後充実してほしい施策などについて、自由にご記入ください。

知的重度者の GH を作ってほしいまたは事業者ができるように手助け（資金的または土地や場所の提供）をしてほしい。 放課後児童デイサービスを卒後も同じように利用できるサービスが必要。 日中一時支援も居宅サービスも利用できる場所がない。 ゆりかごから墓場までの生涯通じて本人を中心とした支援の輪ができるようなシステムを起動させてほしい。 家族・団体・行政・福祉関係機関・学校・放課後デイサービス事業所など一堂に会し本音で話し合う場が必要ではないでしょうか？
一人で暮らせないので、親がいなくても暮らし続けたためのグループホームの確保
障害者の就労について、甲賀市での法定雇用達成率は50%以上だと聞いていますが、障害の程度の軽い人の雇用率です。重度になるにつれ雇用率は下がります。 重度になる人も、働きたいと希望しております。 更なる就労の機会を探していただきたいと思います。
・子育て、不登校、精神疾患などで相談したくても電話できない、相談に行くことに躊躇してしまう。市の方から出向き話を聞いてもらうことは大変だと思うが、それで救われる方がたくさんいると思う。 ・放課後等デイサービスの日数を増やしていただきたい。もしくは日中一時支援の事業所が増えると助かる。 ・障がいのある人がメインだけど、誰が行ってもいいイベントの開催。

問6

市の障がい福祉施策に関して、ご意見、ご要望がありましたら自由にご記入ください。

<p>課題が多いにしても今年はこれを重点的に行うなど具体的に解決の方向に働きかけの積み重ねを行ってほしい。</p> <p>毎回、課題はほぼ同じでなかなか進まないのは、本当のところどのように思い政策にしようとして行こうとしているのか伝わってこない。</p> <p>障がい児者本人と家族は日々待ったなしの厳しい状況であると理解してほしい。</p> <p>障がい者を支援するマンパワー不足をどのように解決していくのかもお聞きしたい。</p> <p>この意見を聞かれてどのように感じられどのように解決していこうと動かれるのかもお聞きしたい。</p>
<ul style="list-style-type: none">・市の職員に現場を見て、まずは知ってほしい。・障害者への接し方の教育が必要。(彼らの視点に立った声かけの方法など)
<p>事業者への人材定着のための支援</p>
<p>物事がスムーズに進まない。</p> <p>もっと、スピーディにしてほしい。</p>
<ul style="list-style-type: none">・野洲市にあるなかよし交流館のような気軽に出かけられる場所があると、土日祝や長期休みにとても助かる。また、つみきの解放も検討していただきたい。学校、放課後等デイサービス、家庭以外に行ける場所がない。特に長期休暇は追い詰められる。・甲賀町と土山町だけ放課後等デイサービスがないので、実際困っている。作っていただけると大変助かる。・親や家族が交流できる機会をもっと作ってほしい。学校のことや習い事など、どこよりも親同士から得られる情報が多い。市からの情報だけではわからないことがある。